



京都大学

KYOTO UNIVERSITY

東京で学ぶ 京大の知 シリーズ14



現在の美術研究は、実に多様です。日本や西洋の美術について歴史的な研究を行う、いわゆる美術史研究もあれば、現在の様々な美術のシーンを分析して語る現代美術研究もあります。それぞれの領域では、従来の言説を覆すような新見解がしばしば提唱されていて、活発な議論が行われています。そこで、今回は、文学研究科に所属する教員4人が、それぞれが専門とする領域の研究の最前線を紹介し、もっともホットなテーマについて、わかりやすくお話しします。

[主催] 京都大学

[講演時間] 各回18時30分~20時

参加費無料

運慶研究の最前線

根立 研介
文学研究科 教授



第1回 | 2月20日(木)

わが国でもっとも著名な仏師、運慶は近年、遺品の文献史料の発掘が進み、研究が著しく進展しています。しかしながら、なお謎の多い仏師です。彼の事績や遺品をあらためて検討しながら、新たな運慶像を探ってみたいと思います。

若い画家たちの師としてのレンブラント

中村 俊春
文学研究科 教授



第2回 | 2月27日(木)

近代以前の西洋では、画家たちの活動の拠点は工房でした。工房は、絵画制作の場であり、かつ、若い画家たちの育成機関でもありました。17世紀オランダの巨匠レンブラントは、師として、弟子たちをどのように教育していたのでしょうか。

16世紀のヨーロッパにおける絵画形態の多様化現象をめぐって

平川 佳世
文学研究科 准教授



第3回 | 3月6日(木)

16世紀のヨーロッパに現れた、石板や金属板、リネンなど高価で珍奇な素材に描かれた一風変わった絵画作品について、発生や流布の経緯、素材が作品に与えた象徴性、独特の用途や鑑賞方法など、様々な観点から考察します。

アヴァンギャルド・アートを考える

吉岡 洋
文学研究科 教授



第4回 | 3月13日(木)

前衛芸術(アヴァンギャルド・アート)は、その突拍子もない表現や行為によって、しばしば人を絶句させます。この講義ではそうした前衛芸術について「考える」こと、すなわち自分の言葉にすることを試してみたいと思います。

開催場所・問い合わせ先

京都大学東京オフィス

東京都港区港南2-15-1
品川インターシティA棟27階

TEL | 03-5479-2220 | FAX | 03-5479-2221
E-mail | t-office@www.adm.kyoto-u.ac.jp
URL | http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/tokyo-office/

京都大学東京オフィスのホームページから申込用紙をダウンロードし、FAXまたはメールでお申し込み下さい。各回定員**100名**、締め切りは**2014年2月11日(火)**です。全4回のシリーズですが、1回のみお申し込みいただくことも可能です。なお、定員を超えるお申し込みをいただいた場合は、抽選とさせていただきます。

